

社会资本総合整備計画(第3回変更)

友部駅周辺地区都市再生整備計画

平成 30 年 3 月 16 日

茨 城 県 笠 間 市

社会資本総合整備計画

平成 30 年 3 月 16 日

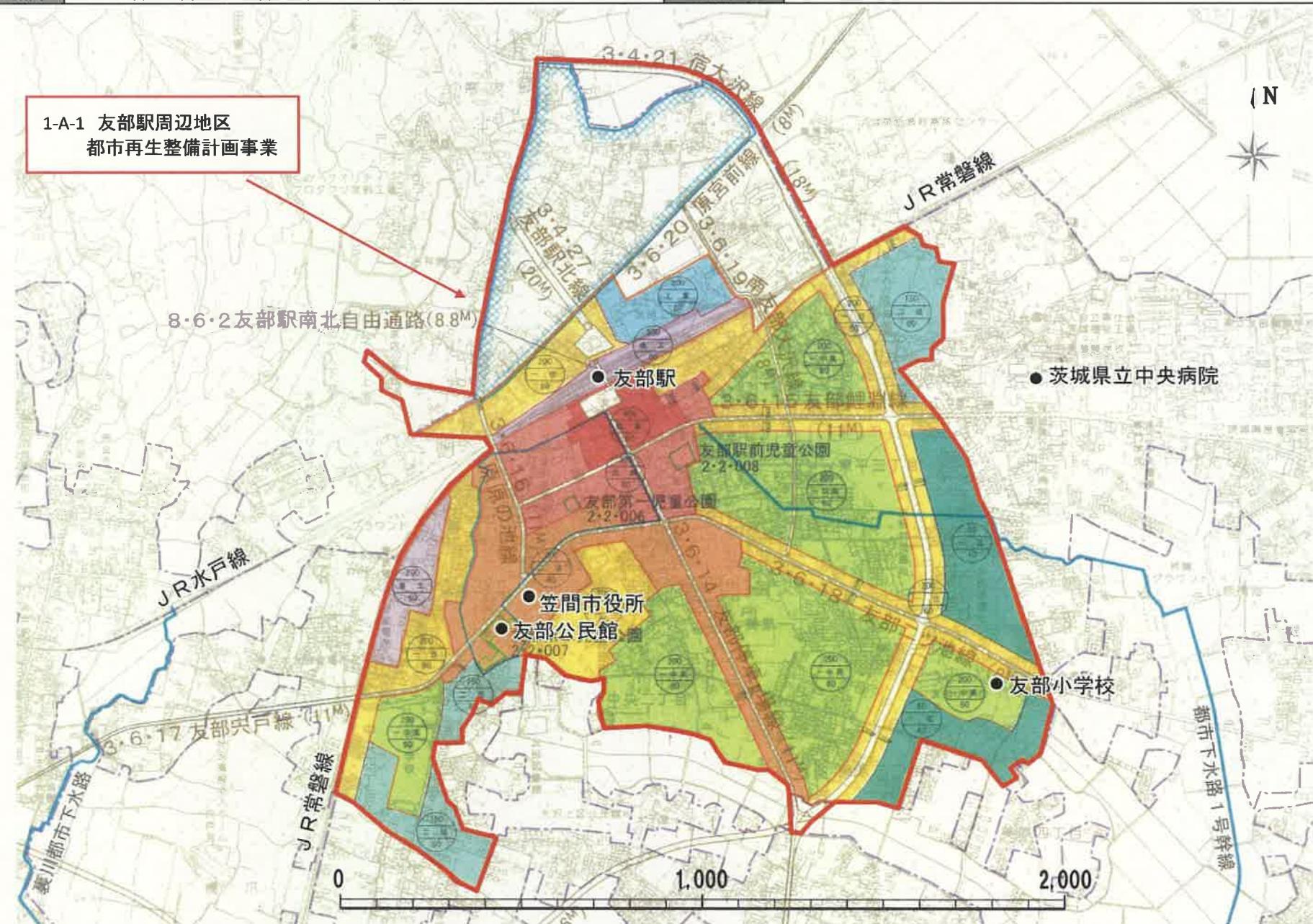
交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H26	H27	H28	H29	H30
配分額 (a)	27.5	87.6	177.5	67.80	
計画別流用 増△減額 (b)	0.0	30.0	0.0	0.00	
交付額 (c=a+b)	27.5	117.6	177.5	67.80	
前年度からの繰越額 (d)	0.0	0.0	0.0	0.00	
支払済額 (e)	27.5	117.6	177.5		
翌年度繰越額 (f)	0.0	0.0	0.0		
うち未契約繰越額 (g)	0.0	0.0	0.0		
不用額 (h = c+d-e-f)	0.0	0.0	0.0		
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%	0.0%		
未契約繰越+不用率が10%を超えて いる場合その理由					

(参考図面) 市街地整備

計画の名称	1 友部駅周辺地区都市再生整備計画
計画の期間	平成26年度～平成30年度（5年間）



都市再生整備計画(第3回変更)

ともべえきしゅうへん
友部駅周辺地区

茨城県 笠間市

平成30年 3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	茨城県	市町村名	笠間市	地区名	友部駅周辺地区	面積	234 ha
計画期間	平成 26 年度	～	平成 30 年度	交付期間	平成 26 年度	～	平成 30 年度

目標

- 大目標 健康都市づくりを目指したコンパクトシティー
 小目標①多くの世代が行き交う賑わいの創出
 小目標②医療・福祉が連携した健康の増進
 小目標③来街者・駅利用者及び地域住民の利便性向上

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

笠間市の笠間地区、友部地区、岩間地区の3つの既存市街地は、JR常磐線とJR水戸線の駅、そして笠間稻荷神社を中心に商店街が形成され、街の賑わいを創出し活性化が図られてきた。しかしながら、人口減少社会の到来と急速な高齢化の進展により市街化の傾向が弱まり、中心市街地の空洞化が起きるとともに、人々の生活スタイルや居住環境に対する価値観が大きく変化してきた。
 友部駅周辺については、友部駅舎・自由通路を中心として整備を進め、平成21年度には市計画事業が終了し、茨城県が実施した県道杉崎友部線の拡幅整備事業も終了するなど、道路を含めた一定の環境整備は終了をしたといえる。また、駅の北東方向約500メートルに位置する公有地(南友部ふれあい公園)には、平成24年度に児童館がオープンし市民に活用されている。
 地域の特徴としては、県立中央病院や県立こころの医療センターが立地し医療福祉機能が充実した地域であり、福祉環境に配慮した市街地整備を進める必要がある。

課題

友部駅周辺は、空き店舗・老朽化した店舗・ビルが目立ち、緑もなく人が集まる場所もない状況にあり、友部駅舎だけが際立つ景観であり閑散としたイメージとなっている。
 また、交流および子育ての拠点となりうる児童館だけが孤立して整備されている状況にある。そこで、観光・文化交流都市の側面を持つ本市の玄関口であることを強く意識し、「活力ある地域づくりの推進」、「医療・福祉の推進」に繋がるよう、友部駅周辺市街地を整備する必要がある。

将来ビジョン(中長期)

笠間市総合計画後期基本計画

笠間市の将来像「文化交流都市」の実現に向け、政策分野を横断して共有する重点視点として「健康都市づくり」「防災力向上」「地域の活性化」を掲げ各種施策を展開する。
 また、市街地の整備においては、本市の特性を生かし活力ある地域づくりを目指すため、広域交流拠点や地区生活拠点の強化、ネットワーク化を進め、市内外の交流の活性化を図るとともに、市民の理解と協力を得ながら、市民生活の質の向上につながる魅力ある市街地の整備を進める。

笠間市都市計画マスタープラン

「地域の将来像 … 賑わいとやさしさが迎える笠間の拠点空間」
 駅周辺の市街地とその周辺の住宅ゾーンが連携し暮らしやすさを実感できる地域としての機能充実を図る。そのため、駅周辺市街地においては、都市機能や医療・福祉機能の高度化を図るとともに、誰もが利用しやすい環境を備え、多くの人々が行き交う環境づくりを進める。

友部駅周辺整備活性化プラン

観光・文化交流都市の側面を持つ本市の玄関口であることを強く意識し、「活力ある地域づくりの推進」、「医療・福祉・子育ての推進」に繋がるよう、友部駅周辺市街地の整備を図り、「多くの世代が行き交う賑わいの創出」、「市民福祉(医療・福祉・子育て)の増進」、「来街者・駅利用者及び地域住民の利便性向上」を目指した、県立中央病院、畜産試験場跡地などの整備誘導との機能分担と連携により、超高齢化社会における市全体の居住環境の構築に資するものとする。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度		目標値	目標年度
NPO法人等活動団体数	団	友部地区で活動しているNPO法人等の数	活動の拠点整備を契機に、活動団体数を増やすことにより賑わいを創出する。	149	24	160	30	
定期的な運動習慣	%	市民アンケート調査	地域交流センターと市立病院が連携し、市民の健康意識を高め運動習慣を定着させ健康増進を図る。	33.9	23	35	28	
狭あいな道路の解消数	件	狭あいな道路が解消された道路沿線の宅地数	生活基盤の道路整備を行い、利便性の向上を図る。	0	25	102	29	
良好な市街地が形成されてきていたりを感じている市民の割合	%	市民アンケート調査	駅周辺市街地の都市機能強化により、良好な市街地が形成されていると感じる市民実感度を高める。	36.19	24	38.70	30	

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none">多くの世代が行き交う賑わいの創出 子どもから高齢者まで多様な世代が駅周辺を行き交うことによる地域の活性化を図るため、笠間市駅周辺整備活性化プランの友部駅周辺整備計画に基づき、地域交流センターを整備する。	<p>【基幹事業】 高次都市施設事業：友部地区地域交流センター 地域生活基盤施設事業：友部駅南自転車駐車場</p> <p>【提案事業】 事業活用調査：事業効果分析調査</p>
<ul style="list-style-type: none">医療と保健、福祉が連携した健康の増進 公有地である南友部ふれあい広場に、すでに整備された児童館を始め、民間誘致した特別養護老人ホームや市立病院を整備し、医療・保健・福祉の連携を図るとともに、地域交流センターに健康ルームを整備し、各施設が連携をとった医療福祉サービスの提供を行う。また、周辺の道路をヘルスロードとして位置づけ、市民の健康意識を高める。	<p>【基幹事業】 高次都市施設事業：友部地区地域交流センター</p> <p>【提案事業】 地域創造支援事業：ヘルスロード施設整備事業 事業活用調査：事業効果分析調査</p> <p>【関連事業】 市立病院建設事業：市立病院建設 特別擁護老人ホーム設置事業：民間特別擁護老人ホーム設置</p>
<ul style="list-style-type: none">来街者・駅利用者及び地域住民の利便性向上 市道や排水の整備、都市公園の防災機能強化など、友部駅を中心に広がる市街地の都市機能を高める利便性の向上を図る。 地区交流センターを災害発生時の避難所として位置づけ、JRを利用する帰宅難民や地域住民の安全性を確保する。	<p>【基幹事業】 道路事業：市道(友)1175、1180号線(改築) 道路事業：市道(友)1195、1196号線(改築) 道路事業：市道(友)1級6号線(排水) 高次都市施設事業：友部地区地域交流センター 地域生活基盤施設事業：耐震性貯水槽 地域生活基盤施設事業：友部地区地域交流センター防災施設</p> <p>【提案事業】 地域創造支援事業：公共施設誘導サイン設置事業 事業活用調査：事業効果分析調査</p>

その他

友部駅周辺の地域特性を生かすと共に、「地域の活性化」「駅利用者及び地域住民の利便性向上」「駅空間のイメージ向上」「未利用公有地の有効活用」という目的を持って、平成21年に完了した友部駅橋上駅舎、南北自由通路等の基盤整備の効果を高め、賑わいのある持続可能なまちの構築を目指し策定した「笠間市駅周辺整備活性化プラン」において、友部駅周辺の公有地を活用し、笠間市立病院の建設及び特別養護老人ホーム(誘導施設)を整備することとしている。

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費 1,052 交付限度額 420.8 國費率 0.4

(金額の単位は百万円)

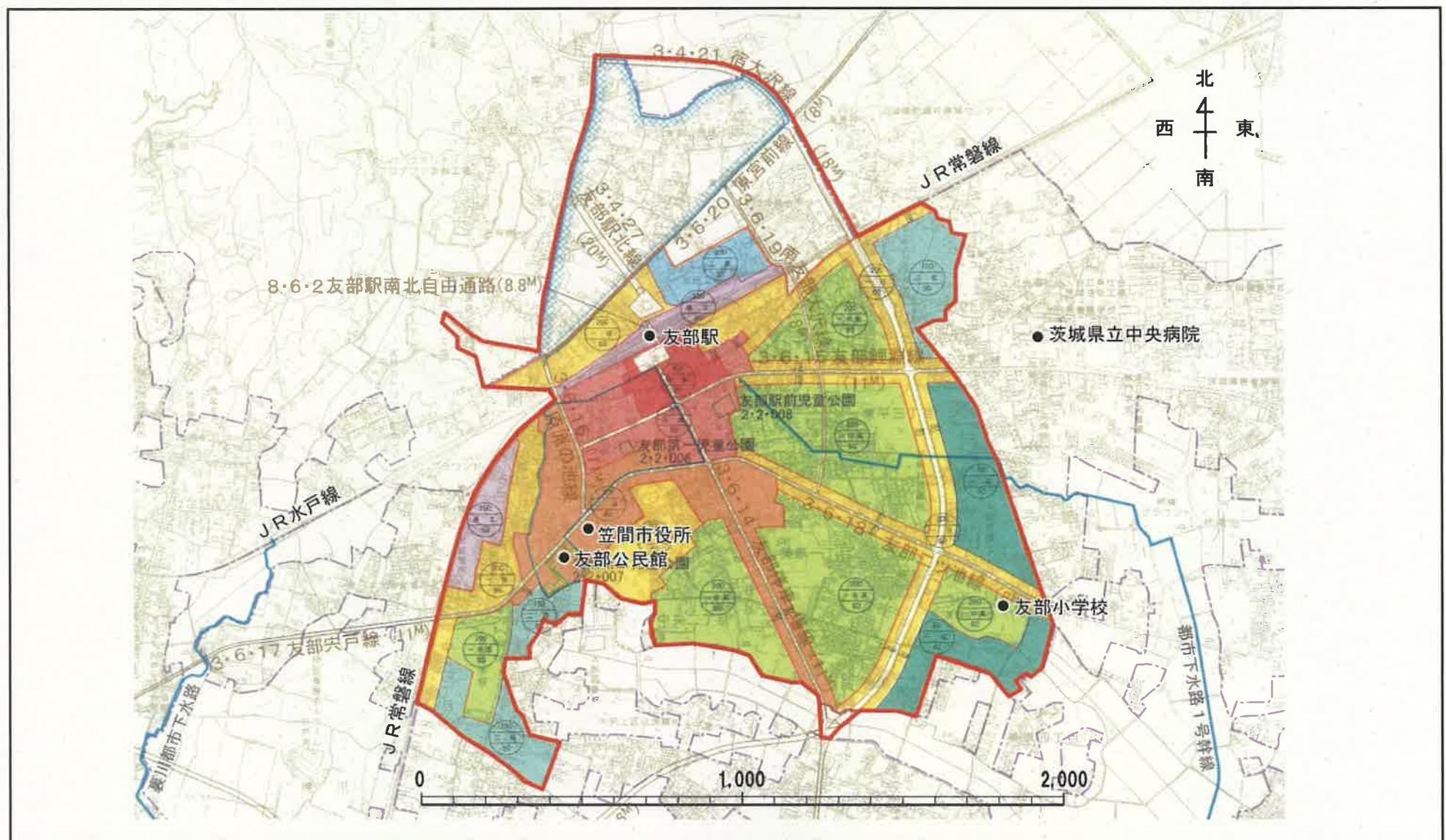
提案事类

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援事業	ヘルスロード施設整備	友部駅周辺	笠間市	直	5,600m	27	28	27	28	6	6	6	6	6
	公共施設誘導サイン設置	友部駅周辺	笠間市	直	8箇所	28	29	28	29	14	14	14	14	14
事業活用調査	事業効果分析調査	—	笠間市	直	—	30	30	30	30	2	2	2	2	2
まちづくり活動推進事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計										22	22	22	0	22
										合計(A+B)			1,052	

合計(A+B) 1,853

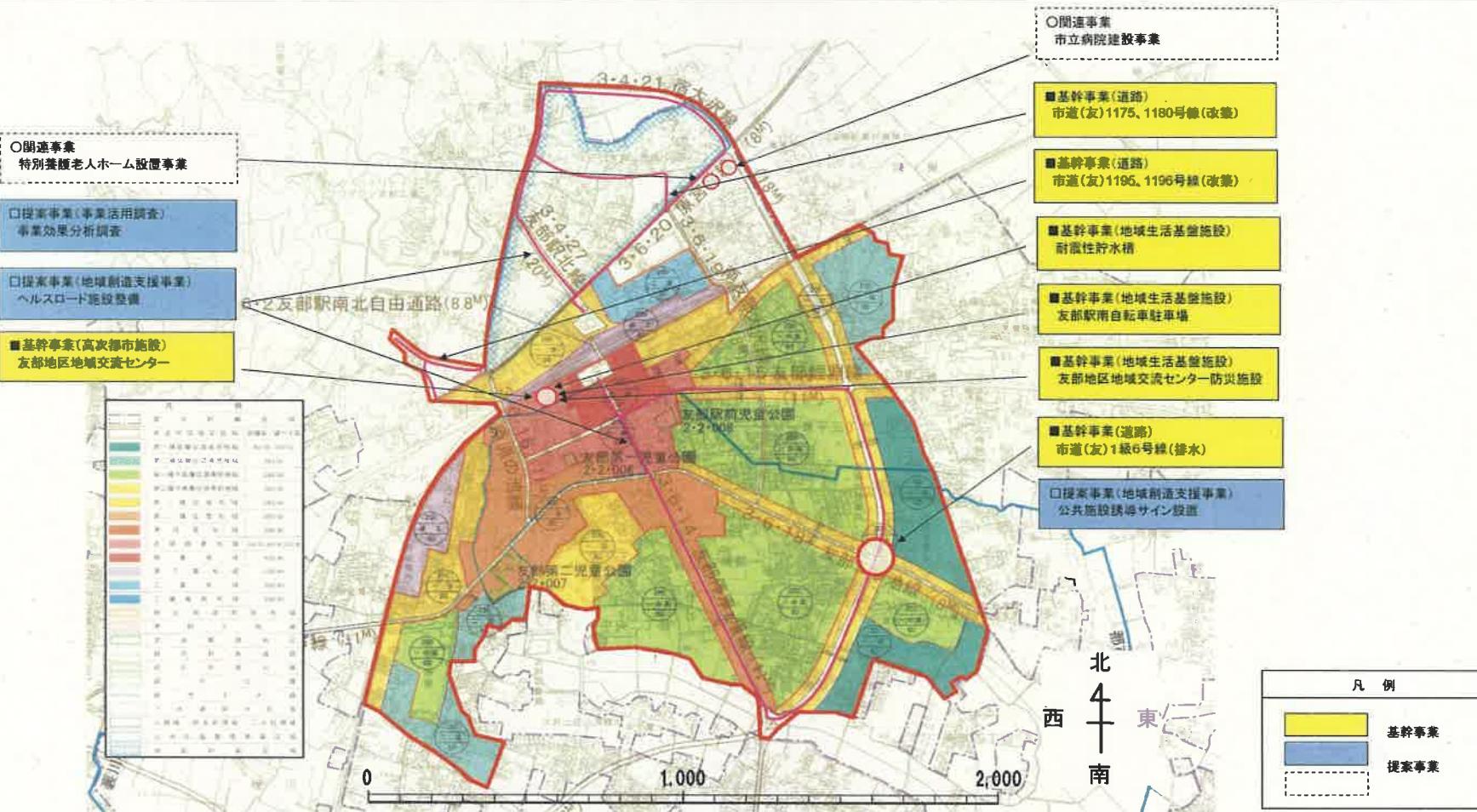
都市再生整備計画の区域

友部駅周辺地区(茨城県笠間市)	面積 234 ha	区域 友部駅前、中央1丁目、中央2丁目、中央3丁目、中央4丁目、美原1丁目、美原2丁目、美原3丁目、美原4丁目、八雲1丁目、八雲2丁目、東平1丁目、東平2丁目、東平3丁目、東平4丁目、南友部、鴻巣、平町
-----------------	--------------	--



友部駅周辺地区(茨城県笠間市) 整備方針概要図

目標	大目標 健康都市づくりを目指したコンパクトシティ 小目標① 多くの世代が行き交う賑わいの創出 小目標② 医療・福祉が連携した健康の増進 小目標③ 来街者・駅利用者及び地域住民の利便性向上	代表的な指標	NPO法人等活動団体数（団）	149	(25年度) →	160	(30年度)
			定期的な運動習慣（%）	33.9	(23年度) →	35.0	(28年度)
			狭隘な道路の解消数（件）	0	(25年度) →	102.0	(29年度)
			良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合（%）	36.19	(24年度) →	38.7	(30年度)



社会资本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称: 友部駅周辺地区都市再生整備計画 事業主体名: 笠間市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	<input type="radio"/>
2)上位計画等と整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	<input type="radio"/>
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	<input type="radio"/>
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	<input type="radio"/>
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	<input type="radio"/>
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	<input type="radio"/>
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	<input type="radio"/>
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	<input type="radio"/>
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	<input type="radio"/>
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	<input type="radio"/>
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	<input type="radio"/>
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	<input type="radio"/>
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	<input type="radio"/>